九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[015_01] 九州大学理学部研究報告. 地質学

https://hdl.handle.net/2324/4495625

出版情報：九州大学理学部研究報告. 地質学. 15 (1), 1987-03-15. 九州大学理学部
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

Kanetoshi Kanmera

勘米良亀齢先生に捧げる

勘米良亀齢先生は大正12年11月1日熊本県球磨郡湯前町にて出生，本年63歳の誕生日を迎えられ，来る昭和62年の春九州大学を定年退職の予定であります．

先生は昭和18年10月九州帝国大学理学部地質学科に入学，松本達郎教授の下で層序学を専攻し，昭和21年9月卒業後，助手として採用され，同25年講師，同27年助教授として松本教授を助け，同52年層序学担当教授に昇任され，現在に至っています．この間41年の長きにわたり層序学とその関連分野の研究と後進の指導並びに教室の発展に専念され，多くの業績を残されました．

先生の研究は多岐にわたっていますが，代表的なものとして，前半期の上部古生界の生層序学的研究と，後半期における西南日本のテクトニクスに関する研究が挙げられます．前者では，球磨山地の矢山岳石灰岩について当時としては格段に精度の高い地質調査に基づき，紡錘虫化石群の分類・記載を行い，それらの垂直分布・共存関係を明らかにして，中～上部石炭系・下部二畳系の生存期間化石帯を確立し，東アジアの標準生層序区分となった栗木統・氷川統を設定されました．また南部北上の下部二畳系坂本沢統の層序・紡錘虫について従来の知識を全面的に改訂したほか，上部二畳系の紡錘虫生層序を確定して球磨統・三田井統を設定するなど，日本の上部石炭系～二畳系の層序・地史の研究において常に先導的役割を果されました．

後者では，それまで膨大な厚さの地向斜堆積物とされてきた四万十帯について，宮崎県北部の同帯の層序・構造を門下生とともに解析して，大洋側に一方向性を示す逆順位の地層配列をもつ覆瓦構造を明らかにして，同帯の地層が海洋底の沈み込みに伴う海溝及び海洋底堆積物の逆断層かき上げ体を含むという付加造山の概念を，古期岩体について世界に先駆けて提唱されました．また日南山地で大規模な海底地滑り堆積体，すなわちオリストストロームを本邦で初めて認定し，その造山帯における意義を説かれ，また近年においては，古生代末における海山―礁石灰岩体及びその周辺大洋底珪質堆積物の衝突・付加過程も明らかにされました．これらの一連の論文や関連学会における招待または特別講演・討論会や著書を通じて，数10年にわたり日本の地質学界に支配的であった地向斜造山の概念をくつがえし，今日一般化された付加造山の概念を定着させた貢献は特筆に値します．

以上のほか，先生は上記の矢山岳の研究で本邦で初めて石灰岩体内の地層区分図を表わし，また坂本沢その他の代表的な石灰岩について組織的な堆積相解析を行うなど，炭酸塩岩の研究においても先駆的・指導的な業績を挙げられました．

先生は英国グラスゴー大学留学を始めとして，二畳紀―三畳紀境界問題討論会，地向斜堆積作用討論会，造山帯の造構過程に関するペンローズ会議などの国際会議に招待され，鳥山隆三名誉教授と共同のタイ国二畳系の古生物・層序学的研究や，紡錘虫研究者，堆積学研究者，W. Hamilton, W. R. Dickinson, D. L. Jones など著名な付加体研究者の相次いだ来訪に際して，球磨山地の秩父帯・四万十帯，秋吉帯などの巡検案内等を通じて，国際学術交流にも尽されました．

勘米良教授は，学内においては，特に紀要・研究報告の編集・出版に奉仕され，付属図書館商議員，学生部参与，理学部同窓会長などをつとめられました．学界では，長年にわたり日本地質学会評議員，日本古生物学会評議員，古生物学会特別号編集委員長を歴任し，また日本地質学会西日本支部長として，関係学会の発展に尽されました．先生は，昭和30年広島大学を始めとして，20校をこえる大学で，学部及び大学院の講師として招かれ，また著書や啓蒙的な解説を通じて，全国的に後進に大きな刺激を与えてこられました．

先生はバンカラ精神を持たれた気骨の通った九州人であられます．学問上の議論を好まれ，特に若い研究者達ととことん議論することによって学問の進歩をはかられ，博識と広い経験と深い洞察によって地質学の面白さを身をもって示されました．先生は心暖かな温厚さと鋭い洞察力とを兼ね備えられた指導者として我々の心に深く残ることでありましょう．

昭和61年10月31日

九州大学理学部地質学教室
廣渡文利
外一同

勘米良亀齢教授略歴

大正12年11月1日　熊本県に生れる

学歴・資格

昭和18年9月　熊本高等工業学校採鉱学科卒業

昭和21年10月　九州帝国大学理学部地質学科卒業
昭和33年7月　理学博士（主論文 Stratigrahical and paleontologial studies of the Upper Carboniferous and Lower Permian Yayamadake Limestone, with special reference to fusulinids）

職歴・併任

昭和21年10月　九州帝国大学理学部助手
〃 25年11月　九州大学理学部講師
〃 27年7月　九州大学理学部助教授
〃 28年4月　九州大学大学院理学研究科授業担当
〃 30年11月　広島大学理学部講師（併任）
〃 31年5月　工業技術院地質調査所調査員（併任）
〃 32年11月　九州大学分校講師（併任）
〃 35年11月　九州大学農学部講師（併任）
〃 36年4月　九州大学農学部講師（併任）
〃 37年7月　熊本大学理学部講師（併任）
〃 38年4月　九州大学大学院理学研究科担当
〃 38年11月　広島大学理学部講師（併任）
〃 39年9月　熊本大学理学部講師（併任）
〃 40年4月　九州大学教養部講師（併任）
〃 43年10月　東京大学理学部講師・同大学院理学研究科授業担当（併任）
〃 48年10月　鹿児島大学理学部講師（併任）
〃 50年4月　金沢大学理学部講師・同大学理学研究科担学（併任）
〃 51年6月　名古屋大学理学部講師・同大学院理学研究科担当（併任）
〃 51年12月　大阪市立大学理学部講師（併任）
〃 51年12月　高知大学文理学部講師（併任）
〃 52年4月　東北大学理学部講師（併任）
〃 52年7月　九州大学理学部教授層序学講座担当・同大学院理学研究科指導教官
〃 52年10月　神戸大学理学部講師・同大学院理学研究科担当（併任）
〃 53年4月　山口大学文理学部講師（併任）
〃 53年7月　徳島大学教育学部講師（併任）
〃 54年4月　筑波大学講師・同大学院地球科学研究科担当（併任）
〃 54年10月　愛媛大学理学部講師（併任）
〃 55年4月　九州大学教育学部講師（併任）
〃 55年5月　新潟大学理学部講師（併任）
〃 55年11月　北海道大学理学部講師・同大学院理学研究科担当（併任）
〃 56年4月　広島大学理学部講師・同大学院理学研究科担当（併任）
〃 57年5月　信州大学理学部講師（併任）
〃 58年4月　山形大学理学部講師（併任）
〃 60年4月　九州大学理学部古生物学講座担当（兼任）
〃 60年4月　京都大学理学部講師・同大学院理学研究科担当（併任）
〃 62年3月　定年退職

嘱託・委員等

文部省学術審議会専門委員（昭和44年～45年）
国立科学博物館日本列島の自然史科学的総合研究の調査研究員（昭和45年～47年）
日本学術振興会流動研究員等審査会専門委員（昭和54年～55年；58年～59年；60年～61年）
九州大学付属図書館商議委員（昭和56年～58年）
九州大学学生部参与（昭和59年～61年）
国土開発研究センター九州地方土木地質編纂委員会委員長（昭和60年～62年）
福岡県土地分類基本調査研究会会長（昭和54年～62年）
秋吉台科学博物館顧問（昭和35年～現在）

学会役員

日本地質学会評議員（昭和43年～45年；47年～60年）
日本古生物学会評議員（昭和42年～55年）
日本古生物学会特別号編集委員長（昭和48年～53年）
日本地質学会西日本支部長（昭和61年～現在）

勘米良亀齢（Kametoshi KANMERA）著作目録

A　論文等

1. 1949: 〔With T. MATSUMOTO〕 Contributions to the tectonic history in the Outer Zone of Southwest Japan. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **3**, (2), 77–90.
2. 1950: 球磨川中流箙瀬・神瀬地域の地質構造. 九大理研報〔地質〕, **2**, (2), 77–100.
3. 1951: 熊本県八代地方の三畳紀層. 地質調査所報告, 特別号, 110–113.
4. 1952: 熊本県氷川流域における上部石炭系および下部二畳系. 地質雑, **58**, (676), 17–32.
5. 1952: The Lower Carboniferous Kakisako Formation of southern Kyushu, with a

description of some corals and fusulinids. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D(Geol.), **3**, (4), 157-177, 5 pls.

6. 1952: 〔松本達郎と共著〕球磨川下流流域. 地質巡検案内書. 九州大学理学部地質学教室, 1-71.
7. 1953: 球磨層—特に日本の二畳系上部統に関して—. 地質雑, **59**, (697), 449-468.
8. 1954: The fusulinids from the Yayamadake Limestone of the Hikawa Valley, Kumamoto Prefecture, Kyushu, Japan, Part I. *Jap. Jour. Geol. Geogr.* **25**, (1-2), 117-144, 3 pls.
9. 1954: Fusulinids from the Upper Permian Kuma Formation, southern Kyushu, Japan—with special refernce to the fusulinid zone in the Upper Permian of Japan. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **4**, (1), 1-38, 6 pls.
10. 1955: Fusulinids from the Yayamadake Limestone of the Hikawa Valley, Kumamoto Prefecture, Kyushu, Japan. Palrt Ⅱ. Fusulinids of the Upper Carboniferous. *Jap. Jour. Geol. Geoqr.*, **27**, (3-4), 177-192, 2 pls.
11. 1956: *Toriyamaia*, a new Permian fusulinid genus from the Kuma massif, Kyushu, Japan. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N.S. 21, 251-257, 1 pl.
12. 1957: Revised classification of *Cancellina* and *Neoschwagerina*, and evolution of Sumatrininae and Neoschwagerininae. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **4**, (1), 47-64, 2 pls.
13. 1958: Fusulinids from the Yayamadake Limestone of the Hikawa Valley, Kumamoto Prefecture, Kyushu, Japan. Part Ⅲ. Fusulinids of the Lower Permian. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **6**, (3), 153-215, 12 pls.
14. 1961: Upper Carboniferous corals from the Yayamadake Limestone, Kyushu. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **10**, (2), 207-232, 5pls.
15. 1961: 中部ペルム系小崎層. 九大理研報〔地質〕, **5**, (4), 196-214, 1 pl.
16. 1962: 〔with K. Fujii and T. Matsumoto〕 Notes on the Chichibu geosyncline. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **12**, (3), 204-218.
17. 1963: Fusulines of the Middle Permian Kozaki Formation of southern Kyushu. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **14**, (2), 79-141, 9 pls.
18. 1964: 〔松本達郎と共著〕5万分の1地質図幅「日奈久」および説明書. 地質調査所, 1-147, 英文摘要1-27.
19. 1964: 〔古川博恭と共著〕上部ペルム系—トリアス系神瀬層群 (三宝山帯の研究). 九大理研報, 〔地質〕, **6**, (3), 237-258.
20. 1964: Triassic coral faunas from the Konosé in Kyushu; with notes on stratigraphy 〔with H. Furukawa〕. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **15**, (1), 117-147, 8 pls.
21. 1965: 〔with T. Mikami〕 Succession and sedimentary features of the Lower Permian Sakamotozawa Formation. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D(Geol.), **16**, (3), 265-274.
22. 1965: 〔with T. Mikami〕 Fusuline Zonation of the Lower Permian Sakamotozawa Series. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D (Geol.), **16**, (3), 275-320, 10 pls.
23. 1965: 〔三上貴彦と共著〕坂本沢層の堆積相と化石群. 化石, **10**, 4-8.
24. 1967: 日本の古生代石灰岩に関する堆積学的研究の現状と問題点. 日本地質学会他4学会連合学術大会. 堆積学に関する諸問題討論会資料, 85-89.
25. 1968: 〔with T. Matsumoto and H. Sakamoto〕 Notes on two Cretaceous ammonites from the Tomochi Formation of Kyushu. *Jap. Jour. Geol. Geogr.*, **39**, (2-4), 139-148, 1 pl.
26. 1968: 球磨統および世界要地のペルム系上部統の生層序. 化石, 15, 31-39.
27. 1968: 地向斜の火山性物質に伴う堆積物. 地質学論集, 1, 23-32.
28. 1968: 〔with R. Toriyama〕 Fusulinacean

fossils from Thailand, Part Ⅱ. Two new Permian genera from Thailand. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **4**, 29–44, 3 pls.

29. 1968: 〔with R. TORIYAMA〕 Fusulinacean fossils from Thailand, Part Ⅲ. *Maklaya*, new generic designation for neoschwagerinids of the group of *Cancellina pamirica* LEVEN. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **5**, 31–46, 2 pls.
30. 1968: 〔中沢圭二と共著〕 日本の中・古生界の研究の歴史と現状ならびに地向斜に関する二，三の問題. 日本地質学会，日本の地質学—現状と将来への展望，33–57.
31. 1969: 〔with R. TORIYAMA and R. INGAVAT〕 Fusulinacean fossils from Thailand, Part V, *Neofusulinella* from Thailand. *Geol. Paleont. Southeast Asia*, **7**, 15–32, 2 pls.
32. 1969: Litho- and bio-facies of Permo-Triassic geosynclinal limestone of the Sambosan belt in southern Kyushu. *Palaeont. Soc. Japan, Spec. Papers*, **14**, 13–39, 5 pls.
33. 1969: 徳島県那賀川上流の秩父帯北帯の古生層. 九大理研報〔地質〕, **9**, (1), 176–186.
34. 1971: 日本の古生代・初期中生代地向斜火山活動史. 地質学論集, **6**, 97–110.
35. 1972: 〔小畠郁生と共著〕 日高累層群石灰岩の岩相と生相概要. 国立科博専報, **5**, 203–211, 1 pl.
36. 1973: 〔with K. SAWADA〕 Greenstones from the Sorachi and Hidaka Groups of the Hidaka Mountains, Hokkaido. *Mem. Nat. Sci. Museum*, **6**, 147–161.
37. 1973: 四万十帯の炭酸塩岩・珪質岩・緑色岩に関する若干の問題. 四万十地向斜シンポジウム論文集, 102–108.
38. 1973: 〔with K. NAKAZAWA〕 Permian–Triassic relationship and faunal changes in the eastern Tethys. *in* A. LOGAN and L. V. HILLS (eds): *The Permian and Triassic Systems and their mutual relationship*, a symposium. *Canad. Soc. Petrol. Geologists, Mem.* 2, 100–119.
39. 1974: Paleozoic and Mesozoic geosynclinal volcanism in the Japanese Islands and associated chert sedimentation. *in* R. H. DOTT, Jr. and R. H. SHAVER (eds.): *Modern and ancient geosynclinal sedimentation*, a symposium. *Soc. Econ. Paleontologists and Mineralogists*, Spec. Publ., 19, 161–173.
40. 1974: 〔with R. TORIYAMA, S. KAEWBAIDHOAM and A. HONGNUSONTHI〕 Biostratigraphic zonation of the Rat Buri Limestone in the Khao Phlong Phrab area, Sara Buri, central Thailand. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **14**, 25–48.
41. 1975: 〔with R. TORIYAMA and others〕 The Carboniferous and Permian Systems in Thailand and Malaysia. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **15**, 39–76.
42. 1975: 〔坂井卓と共著〕 四万十川層群の形成場は現在の海底ではどのような所に対応するか？ GDP連絡誌, Ⅱ-(1)-(1), 構造地質3, 55–64.
43. 1975: 〔ペルム・三畳系ワーキンググループと共著〕 日本におけるペルム・三畳系境界付近の層序と対比. 地質雑, **81**, (3), 165–184.
44. 1976: 過去と現在の地向斜堆積体の対応Ⅰ, 科学, **46**, (5), 284–291; Ⅱ, 同, (6), 371–378.
45. 1976: 〔with K. ISHII and R. TORIYAMA〕 The evolution and extinction patterns of Permian fusulinaceans. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **17**, 129–154.
46. 1977: 〔with R. TORIYAMA〕 Fusuline fossils from Thailand, Part X. The Permian fusulines from the limestone conglomerate formation in the Khao Phlong Phrab area, Sara Buri, central Thailand. *Geol. Palaent. Southeast Asia*, **18**, 1–27, 3 pls.
47. 1977: 球磨山地の上部三畳系田浦層石灰岩の岩相と生相. 九大理研報〔地質〕, **12**, (3), 147–156, 4 pls.
48. 1977: 三波川帯と秩父帯との層序関係. 三波川帯（秀敬編），広島大学出版会，97–106.
49. 1977: 地向斜堆積物におけるオリストストロームとその認定. 地団研専報, **20**, 145–159.
50. 1978: The Carboniferous in Kyushu Province. *in*: *The Carboniferous Lexcon of Japan*, Geol. Survey of Japan Rep. 258, 35–40.
51. 1979: 〔佐野弘好・坂井卓と共著〕 四万十帯の緑色岩に伴う堆積物. 地質雑, **85**, (7), 435–

444.

52. 1979:〔土谷信之・坂井卓と共著〕九州耳川中流域における四万十帯緑色岩類の産状と岩石学的特徴. 地質雑, **85**, (7), 445-454.
53. 1979:〔with R. SUGISAKI, T. SUZUKI, T. SAKAI and H. SANO〕 Chemical compositions of green rocks in the Shimanto Belt, Southwest Japan. *Jour. Geol. Soc. Japan*, **85**, (7), 455-466.
54. 1979:〔渡辺耕造・中島浩一と共著〕三畳系上村石灰岩層のコノドント生層序. 鹿沼茂三郎教授退官記念論文集, 127-137.
55. 1979:〔with R. TORIYAMA〕 Fusuline fossils from Thailand, Part XII, Permian fusulines from the Ratburi Limestone in the Khao Khao area, Sara Buri, central Thailand. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **20**, 23-93, 11 pls.
56. 1980:〔with T. MATSUMOTO and Y. OTA〕 Cephalopod faunules from the Cretaceous Yatsushiro Formation (Kyushu) and its implications. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N.S., 118, 325-338, 1 pl.
57. 1981:〔坂井卓と共著〕宮崎県北部の四万十帯の層序ならびに緑色岩の層序・構造的位置. 九大理研報〔地質〕, **14**, (1), 31-48.
58. 1983:〔with H. NISHI〕 Accreted oceanic reef complex in Southwest Japan. *in* M. HASHIMOTO and S. UYEDA(eds.): *Accretion Tectonics in the Circum-Pacific Regions*, Terra Publ. Co, Tokyo, 195-206.
59. 1983: 日南山地南・東部要地の地質〔坂井卓・辻隆司・西弘嗣と共著〕, 日本地質学会第90年学術大会巡検案内書, p. 23-36, 日本地質学会.
60. 1983: 西南日本上部古生界の堆積造構過程に関する一問題—外来堆積体の付加—. 日本地質学会西日本支部第100回例会記念シンポジウム論文集(首藤次男・相原安津夫・坂井卓・佐野弘好編), 67-76.

B 調査報文・地質図等

1. 1951:〔野田光雄, ほかと共著〕20万分の1大分県地質図, 大分県.
2. 1983:〔小川勇二郎・田中豊俊・鹿田昭夫・千足恭平・沢村昌俊と共著〕土地分類基本調査, 甘木(5万分の1)表層地質図及説明書, 福岡県, 28-35.
3. 1986: 20万分の1九州地方土木地質図〔首藤次男・山口勝と共編〕国土開発技術研究センター, 東京.

C 著書・編集・執筆分担等

1. 1967: 地史学(上巻)第8章 石炭系 p. 193-253 朝倉書店.
2. 1971: 地向斜堆積物の研究(松本達郎と共編)地質学論集第6号, p. 204 日本地質学会
3. 1971: 古生物学, I, 第6章 四放(ルゴサ)サンゴ目, p. 205-290, 朝倉書店.
4. 1968: 熊本県球磨山地の石炭紀・ペルム紀フズリナ化石 1, 2, 日本化石集 p. 1-5, 1-6, ; 1970: 同トリアス紀六射サンゴ, 同11-66, 築地書館.
5. 1974: 石炭紀 ブリタニカ国際大百科事典, **11**, p. 344-348.
6. 1974: 二畳紀 ブリタニカ国際大百科事典, **15**, p. 80-83.
7. 1979: 岩波講座 地球科学5(編著), 地球表層の物質と環境, 堆積岩と堆積相—石灰岩 p. 117-136; 地殻変動と堆積物—オリストストローム, p. 184-192, 岩波書店.
8. 1980: 岩波講座 地球科学15(編著), 日本の地質, 古い時代の地層群と広域変成岩(橋本光男と共著), p. 5-94; 地質構造とその発達, p. 324-350, 岩波書店.
9. 1983: 日本の石灰石, 熊本県地区, p. 460-469, 石灰石鉱業協会, 東京.
10. 1978: Bibliography of Palaeontology in Japan, 1961-1975 (edited with H. UJIIÉ), 263 p. Palaentological Society of Japan.
11. 1987: 九州地方土木地質図解説書(分担執筆, 地質構造, 堆積岩, 国土開発技術研究センター, 東京.
12. 1987: 日本の堆積岩(編著), 炭酸塩岩, p. 90—143, 岩波書店.